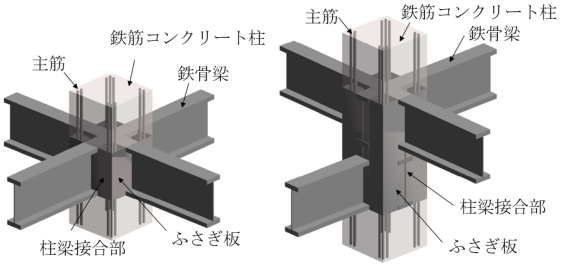
(一財)日本建築総合試験所
建築技術性能証明　評価シート

【技術の名称】 J-RCS 構法 ーふさぎ板を用いた梁貫通形式RC柱S梁接合部構法ー（改定1）	性能証明番号：GBRC 性能証明 第 23-05 号 改 1 性能証明発効日：2025 年 2 月 27 日 【取得者】 JFE シビル株式会社

【技術の概要】

本技術は、柱を鉄筋コンクリート(RC)造、梁を鉄骨（S）造とし、X,Y 両方向の鉄骨（H 形鋼）梁を貫通させ、ふさぎ板を用いて RC 柱 S 梁接合部を構成する構法である。ふさぎ板とは、柱梁接合部のコンクリートの外周を覆い、コンクリートを拘束するとともに、せん断力を負担する鋼板であり、構造実験で性能を確認した上で、支圧板をふさぎ板で代用するディテールとしている。本構法では、ふさぎ板を用いることで柱梁接合部コンクリートに対する拘束力を高め、設計で要求される柱梁接合部の終局耐力を確保している。



(a)標準タイプ　　(b)段差梁タイプ

図-1　対象とする柱梁接合部

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第 23-05 号 (2023 年 5 月 25 日)
改定 1：GBRC 性能証明 第 23-05 号 改 1 (2025 年 2 月 27 日)

・プレキャスト構法で施工する場合において、RC 柱と RC 柱 S 梁接合部をそれぞれ単体製作する場合を追加

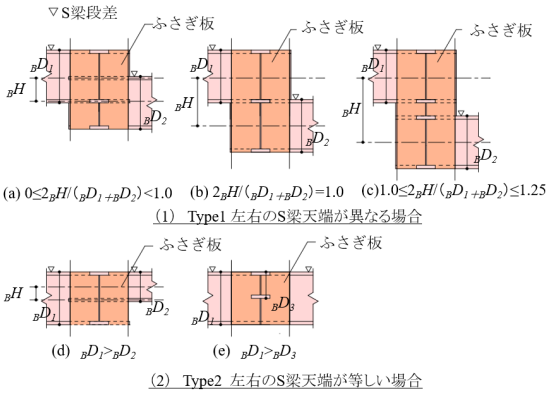


図-2　対象とする段差梁タイプ

【技術開発の趣旨】

本技術は、工期および施工費用の制約条件の下、設計で要求される構造性能の可能な RC 柱、S 梁からなる混合構造建築物の実現を意図して開発されたものである。

表-1　段差梁タイプの適用範囲

項目	適用範囲
段差率 $2\,_BH/(_BD_1 + _BD_2)$	0 以上かつ 1.25 以下
主方向の梁せい比 $_BD_1/_BD_2$ $(_BD_1 > _BD_2)$	0.5 以上かつ 1.0 以下
直交梁と主方向の梁の梁せい比 $_BD_3/_BD_1$	0.5 以上かつ 1.0 以下

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「J-RCS 構法　設計・施工指針・同解説」に従って設計・施工された RC 柱 S 梁接合部は、長期荷重時に使用上支障となるひび割れ等の損傷を起こさず、短期荷重時に修復性を損なうひび割れ等の損傷を起こさない。また同指針で定める終局耐力ならびに変形性能を有する。

【本技術の問合せ先】
JFE シビル株式会社　　担当者：川田 侑子　　E-mail：kawata-yuuko@jfe-civil.com
〒111-0051　東京都台東区蔵前 2 丁目 17 番 4 号　　TEL：03-3864-3793　FAX：03-3864-7315